

とを比較する際に注意すべきことハ、多くの例外はあつたが大抵の組合が大戦中に爲したる組合員數に關する答申中に後軍して居る者を含めて居たことである。

後に掲げる表の第一のものに依ると、一九二〇年にハ大多數の種類の職業に於て其組合員が增加したことが解る。其内増加数の最大のものハ建築労働者(八〇。〇。〇)、其他の建築業(六〇。〇。〇)、炭礦業(八〇。〇。〇)、金屬機械製造、及造船(六〇。〇。〇)、一般労働(五〇。〇。〇)、及公務員(四〇。〇。〇)であるが、増加率の最大のものハ建築労働者(八三パーセント)並に銀行業及保險業(四八パーセント)である。

中には組合數の減少した職業もある。減少数の最も多いのは裁縫業(三〇。〇。〇)及雑(二〇。〇。〇)であるが減少率の最大のものハ雜(三五パーセント)、リンネル及黄麻(一二パーセント)及裁

縫業(一二パーセント)である。

一九二〇年に女組合員の最も著しく増加したのハ製紙、印刷等(一〇。〇。〇)即ち一六パーセント)及銀行業及保險業

(五。〇。〇)即ち九八パーセント)である。又女組合員の減少の最も甚しかったのハ衣服(一元。〇。〇)即ち一三パーセント)及雑(九。〇。〇)即ち五二パーセント)である。

次に掲ぐる表の第二は一九一六―一九二〇の各年末に於ける職業別組合員の移動を示したものである。